

農業



令和8年7月号

会誌 No. 1745

目次

巻頭言

大日本農会会長就任のご挨拶……………菱沼 義久 3

論 壇

雑草と除草剤、除草の今後……………大谷 敏郎 4

総裁現地視察

総裁秋篠宮皇嗣殿下 福島県の農事功績者表彰受章農家をご訪問
……………吉田 岳志 6

農業懇話会

環境負荷の小さな農業と、それを支える仕組みづくり……………小野 邦彦 10
—坂ノ途中の事例から—

農家の気持ち

みかん色の未来を信じて……………板倉 純子 27

研究の最前線

気象応答の理解が導く北海道小麦の収量安定化……………下田 星児 28
—品種特性を生かす麦づくりで気候変動に向き合う—

農業・農村の現場から

狭山茶産地で広がる「使われる」デジタル技術……………工藤 健 39
—冷え込みの先読み技術を中心に—

世界の農業は今

オランダの種苗バリューチェーン：野菜種子で世界を動かす

.....町田（平野）僚子 47

私の経営と志

栃木県矢板市で子牛を育てる.....福田 愛理 53

—父から受け継いだ福田牧場と私の挑戦—

東京農業大学収穫祭から

生物的阻害要因からの作物の保護.....渥美 来愛・地行 響希 55

—東京農業を脅かすウメ輪紋ウイルスとワカケホンセイインコ—

統計情報

2025（令和7）年産大豆（乾燥子実）の作付面積および収穫量..... 59

2026（令和8）年集落営農実態調査結果..... 60

農政情報..... 61

大日本農会だより..... 62

編集部から..... 62

表紙写真説明：シリーズ農村の伝統祭り

かねこばら
鹿子原の虫送り踊り
（島根県 邑南町）

毎年7月20日に行われる邑南町矢上の鹿子原集落に伝わる、五穀豊穡を願う民俗行事の一つです。かつては全国各地で行われていましたが、農業が普及した現在において、古来の形を残す数少ない事例といわれており、1967（昭和42）年5月には島根県の無形民俗文化財に指定されました。

祭りの当日は、花笠に浴衣、紅たすき姿の若衆が太鼓を腰に据え、乗馬姿のわら人形を中心に練り歩きます。独特の「虫送り唄」に合わせて行進し、町内各地で害虫退散を願う踊りを披露。最後に一行は諏訪神社の境内で踊りを奉納し、虫の付いた短冊や花笠の飾りを焚き上げることで、害虫退散と五穀豊穡を祈り、行事を締めくくります。

祭りのシンボルである乗馬姿のわら人形は、平家の武将・斎藤別当実盛をかたどったものです。実盛が源氏の兵に追われた際、手負いの身で水田の稲株に足をとられて討ち死にし、稲を恨んだその魂が害虫となって稲を食い荒らすと信じられてきました。その霊を慰め、害虫を村の外へ送り出そうとしたのが、この祭りの由来だと伝えられています。

（写真および文：（一社）邑南町観光協会）